

令和4年度

令和4年12月

前期 学校評価アンケート結果について

京都市立乾隆小学校
校長 土井田 一史

前期学校評価アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。以下の通り、アンケート集計結果をお知らせいたします。回収率は、82%でした。

保護者・地域、教職員 アンケート項目

- 問1 教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている。
問2 教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。
問3 子ども一人ひとりが大切にされて、認められる学校づくりを進めている。
問4 宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。
問5 教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている。
問6 集団での規律やマナーなどが身に付くような取組を進めている。
問7 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。
問8 子どもが成就感や満足感を感じながら学校生活を送れるような取組が進められている。
問9 子どもに力をつけてほしいという保護者の思いや願いに応えようとする姿勢が見られる。
問10 様々な取組や行事等を通して、家庭・地域と協力して子どもの教育にあたっている。

これまで、保護者の皆様から、「学校評価アンケートに答えにくい（判断しにくい）項目がある」という声をいただいていた。できるかぎり、ご家庭の子どもの姿を通して評価していただきたいところではありますが、どうしても回答しにくいという保護者の方のために、保護者アンケートに関しては「A よくあてはまる」から「D あてはまらない」に加えて、「E わからない」を選択肢に付け加えました。

アンケート結果から

問1『教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている。』では、「Aよくあてはまる」(55.2%)「B ややあてはまる」(41.4%)を合わせて96.6%、問10『様々な取組や行事等を通して、家庭・地域と協力して子どもの教育にあたっている。』では、「A よくあてはまる」(57.8%)「B ややあてはまる」(37.1%)を合わせて94.9%と高い評価をいただいています。このほか、問2『教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。』、問3『子ども一人ひとりが大切にされて、認められる学校づくりを進めている。』でも、およそ9割の保護者の方より「よくあてはまる」「ややあてはまる」という評価をいただきました。教職員評価でも、同様の評価となっています。

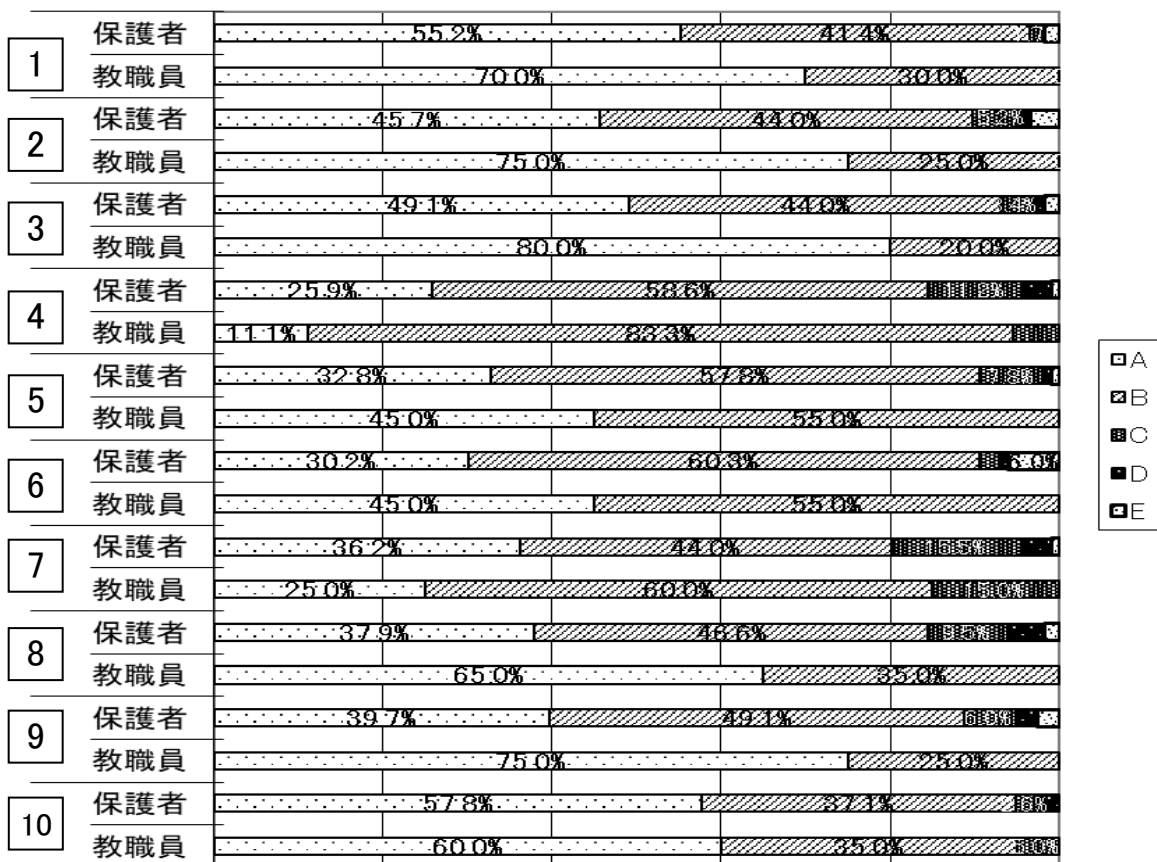
問4『宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。』では、昨年度より「C あまりあてはまらない」「D あてはまらない」評価が+7ptとなりました。学校での学習内容の定着を図るために取り組むのが家庭学習ですが、家庭学習の習慣が身に付いていないという児童の割合が多くなっています。この点については、家庭と連携した支援を引き続き大切にしていきたいところです。また、発達段階に応じて課題のあり方を検討し、高学年では、「やらされるもの」から「自分で課題を見つけて取り組むもの」として、より主体的に取り組むことができるようにすることも必要と考えます。

問5『教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている。』は、学校教育で非常に重要な内容です。ここでは、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」との合計は90.6%と概ね高い評価をいただいておりますが、昨年度を7pt下回りました。「ぐんぐんタイム」や放課後の個別の支援を行っているところですが、授業の中ですべての子どもに学力を身に付けることができるようにすることを最重点と捉え、授業改善を図るとともに、T.T.体制によるきめ細かい指導を継続して行っていききたいと思います。

問7『早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。』については、ここ数年の傾向と同様に、評価の低い結果になりました。教職員評価でも同様の傾向で、学校と家庭が共通の課題として取組を進めていくことが重要であると考えます。「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとした基本的な生活習慣の確立に向けて、ご家庭でもお声掛けや働きかけをお願いしたいと思います。

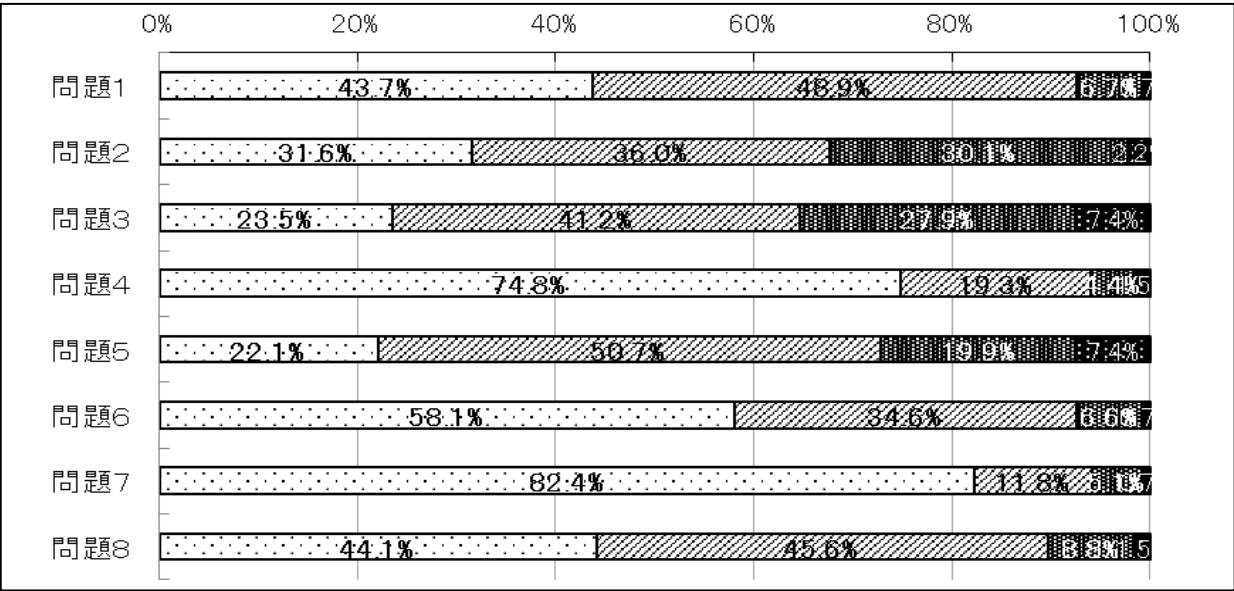
問8『子どもが成就感や満足感を感じながら学校生活を送れるような取組が進められている。』については、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」が84.5%で、前年度比較+12ptと厳しい評価となりました。過去2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学校行事が中止や縮小となりましたが、今年度は、たてわり活動や全校遠足、運動会など、行事のあり方を再度見直しています。このような様々な行事を通して子どもたちは成長し、その中で成就感や満足感を感じることができると思っています。また、行事以外のさまざまな場面でも子どもたちが充実した学校生活を送ることができるよう、取組を進めていききたいと思います。

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない E：わからない



児童アンケート項目

- 問1 あなたは、学校が楽しいですか。
- 問2 勉強（授業）はわかりますか。
- 問3 授業中に発表していますか。
- 問4 宿題をしていますか。
- 問5 早寝早起きをしていますか。
- 問6 あいさつをしていますか。
- 問7 朝ごはんを食べていますか。
- 問8 使ったもののあとかたづけをしていますか。



アンケート結果から

「①あなたは、学校が楽しいですか。」については、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の合計が 92.6%という結果でした。「C あまりあてはまらない」「D あてはまらない」と回答した割合は、7.4%（－2.0pt）でした。学校生活の「楽しさ」は子どもによってさまざまだと思いますが、多くの子どもたちが学校に来ることを「楽しい」と考えていることがうかがえます。

しかし、「②勉強（授業）はわかりますか。」では、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の合計が 67.6%（－10.1pt）という結果でした。「C あまりあてはまらない」「D あてはまらない」と回答した割合は 32.3%で、およそ3人に1人が、学習内容に「わからない」と感じている部分があるという結果です。教員の授業力向上を図り、1時間の授業の中で子どもたちが「わかった！」と言えるような授業を実現できるようにすることを、最重点の課題と捉えています。「③授業中に発表していますか。」では、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の合計が 64.7%（－3.4pt）という結果でした。およそ3分の2の子どもは、授業中に自分の意見を発表することができていると考えています。さらに細かく学年ごとの結果を見ると、よく発表している学年と、そうではない学年に分かれていることが見えてきます。傾向としては高学年になるほど発表をする子どもの割合が少なくなっていますが、積極的に自分の考えを発表している子の割合が少ないという学年では、意図的に考えを交流する場面を設定するとともに、安心して自分の考えを話せる雰囲気も大切にしていきたいと思います。

「④宿題をしていますか。」「⑤早寝早起きをしていますか。」「⑥あいさつをしていますか。」の3つの項目では、「C あまりあてはまらない」「D あてはまらない」と回答した割合が前年度よりも多くなりました。「④宿題をしていますか。」では、保護者アンケートの結果でも評価が低下し、同様の傾向です。学年ごとの結果からは、低学年の子どもたちに「C あまりあてはまらない」「D あてはまらない」評価が多い傾向が見られます。低学年のうちからしっかりと宿題をする習慣を身

に付けられるように、家庭と連携した取組を進めていくことが重要であると考えます。「⑤早寝早起きをしていますか。」では、高学年では「C あまりあてはまらない」「D あてはまらない」評価が多い傾向が見られますが、1年生でも同じ傾向が見られました。学校生活のリズムに十分になじめていないのかもしれませんが、毎日元気に学校生活を送るために、基本的な生活習慣の確立を家庭と連携して進めていくことの必要性を感じます。「⑦朝ごはんを食べていますか。」では、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の合計が 94.2 %で、昨年度と同じ結果でした。「D あてはまらない」の割合は 0.7%（－1.5pt）で、昨年度と比較して改善が見られました。「早寝・早起き」と「朝ごはん」の項目では、どちらも低い評価をしている子どももあり、子ども自身や家庭への個別の働きかけを行う必要性を感じます。

昨年度大幅に改善が見られた「⑧使ったもののあとかたづけをしていますか。」では、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」評価の合計が 89.7%（－3.9pt）とほぼ同様の結果となりました。しかし、「A よくあてはまる」評価は 44.1%（－14.2pt）と大幅に減少しました。休み時間が終わった後や放課後の運動場に使ったボールが出しっぱなしになっていることや、使った後の手洗い場が乱れている様子も見られます。規範意識の向上に向けた取組や声掛けを進めていくことが必要と考えます。

自由記述欄より（※紙面の都合上、いただいたご意見の一部を抜粋して掲載しています。）

- ・とても熱心にご指導いただき毎日感謝しています。親も学ばせていただいています。
- ・いつも配慮ある教育・取組に尽力いただきありがとうございます。下校時の子どもたちを仕事の合間に見かけますが、みな本当に元気で楽しそうで、見かける度に元気がもらえます。先生方、地域の方のおかげです。ありがとうございます。
- ・全校児童が少ないこともあり、校長先生、教頭先生や他の学年のお友達含め、下の名前「〇〇ちゃん」と呼んでいるのが、フレンドリーでよいと思った。

▲オクトパスを走らせないでほしい。

- ・コロナ禍の影響もある中、学校行事を遂行して下さりありがとうございます。
- ・コロナウイルス感染症への対応をしつつ可能な限り課外活動等の取組をお願いします。

⇒オクトパス（東校舎下ピロティ）については、以前より安全性の観点からランニング等での使用の是非を校内でも検討していました。ブロック敷きで砂によってすべりやすいこと、登下校時をはじめ移動のための動線であること、見通しがよくないことなどから、部活動や朝マラソンにおいても使用しないこととしました。

⇒学校では、今後もマスクの着用、手洗い、換気、ディスタンスの確保や子どもが触れる場所のアルコール消毒など、リスクを可能な限り少なくするための対策を徹底して進めていきます。このような感染対策を講じた上で、これまでは実施できなかった教育活動や学校行事も再開しています。運動会や学習発表会では、多くの保護者・地域の皆様に子どもたちのがんばる姿を見ていただくことができました。

※この評価結果については、学校運営協議会の理事会でも報告させていただきました。理事の皆様からは、以下のようなご意見をいただきました。

- ・「勉強（授業）はわかりますか。」の数値が、10年前と比較して低下傾向が続いているのは「危険信号」ではないか。乾隆小学校としてどんな子どもを育てていきたいのかについて教職員で共通理解を図り、取組を推進してほしい。
- ・これから求められる子どもの姿は、「自ら問いを立てられる子ども」ではないか。そのためにも、主体的に物事に向かう子どもである必要を感じる。